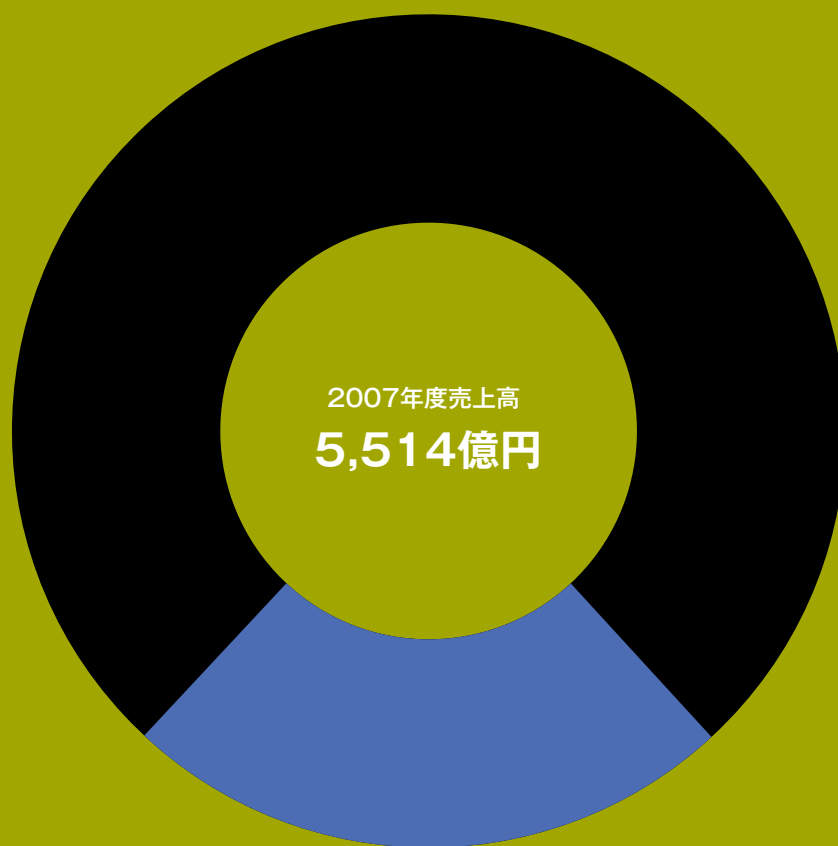


タイヤ

4,198億円 — 売上高に占める割合76.1%



MB

1,316億円 — 売上高に占める割合23.9%

## ○ タイヤ

### 主要商品

乗用車用、トラック・バス用、ライトトラック用、建設車両用、産業車両用、航空機用のタイヤ、アルミホイールなど



### 省燃費タイヤに注力

日本での主力ブランドは省燃費が特徴のECOタイヤ「DNA」シリーズです。「走り」「快適さ」というタイヤの基本性能を高めながら、車の燃費向上によるCO<sub>2</sub>の削減を図っています。近年はタイヤの長寿命化という新しい性能もプラスし、環境性能をさらに進化させています。

### 最上級ブランド「ADVAN」を世界展開

ヨコハマタイヤのブランド地位を世界的に高めていくため、最高峰のタイヤ技術を結集して開発したのが「ADVAN」シリーズです。高性能タイヤの統一ブランドとして2005年から、世界各地で販売を開始しました。

## ○ MB

### 主要商品

ホース、シーリング材・接着剤、コンベヤベルト、免震ゴム、マリンホース、空気式防舷材、ゴルフ用品、航空部品など



### 高圧ホース、建築用シーリング材で国内シェアNo.1

MB商品のなかで、特に高い競争力を誇るのがホースやシーリング材です。建設機械用の高圧ホースをはじめ、建築用シーリング材、自動車メーカーへOEM納入するウィンドシールドシーラントなどで国内トップシェアを握っています。

### 高い世界シェアを誇る海洋商品

船舶同士の接近時などに船体の損傷を防ぐために使う空気式防舷材は世界市場でトップシェアを占有。海上の原油輸送に使うマリンホースでも、世界で高シェアを占めています。

### 軽量、高強度が強みの民間航空機向け商品

ボーイングの主力機種737に化粧室ユニットを納入するほか、A380向けに飲料水用ウォータータンク、トイレ用浄化槽のウエストタンクを独占供給しています。これらの商品には軽くて強い繊維強化プラスチック(FRP)が使われており、横浜ゴムはFRPを製造できる数少ないメーカーのひとつです。

## プロフィール

横浜ゴムは世界有数のタイヤメーカーであると同時に、得意のゴム高分子技術をベースにホース、シーリング材・接着剤、工業資材、航空部品、ゴルフ用品など多彩なビジネスを展開しています。1917年の創業以来、社会のニーズを先取りし、お客様の満足を第一に据えた商品を提供することに力を注いできました。近年は世界的なタイヤ需要の拡大を背景に、アジアに生産拠点を次々設立しタイヤの生産能力の増強に力を入れています。ホース、シーリング材、コンベヤベルトについてもアジアでの現地生産を拡大しており、グローバル展開を積極的に進めています。

## Contents

YOKOHAMA at a Glance .....	2
プロフィール .....	4
決算ハイライト .....	5
株主の皆さまへ .....	6
オレンジオイルで進化した新世代エコタイヤ「DNA Earth-1」 .....	9
事業の概況 .....	12
タイヤ事業 .....	12
MB事業 .....	16
ファイナンシャル・セクション .....	19
コーポレート・ガバナンス .....	35
コンプライアンス .....	36
役員、監査役、執行役員 .....	37
グローバル・ネットワーク .....	38
投資家向け情報 .....	40
株式情報 .....	41

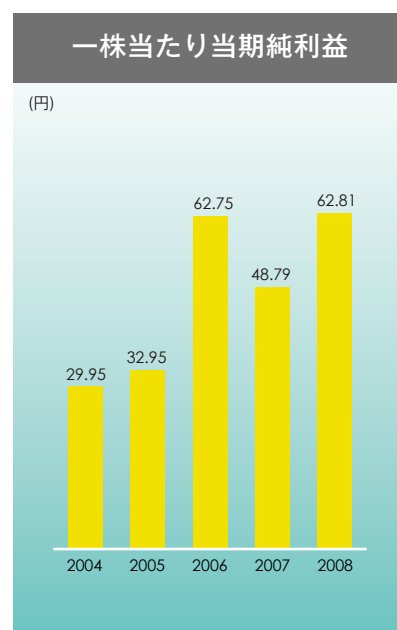
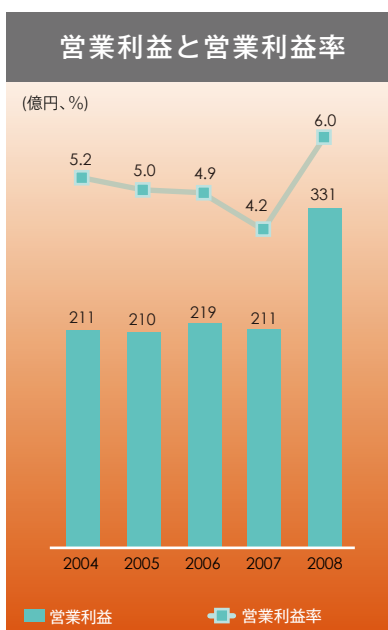
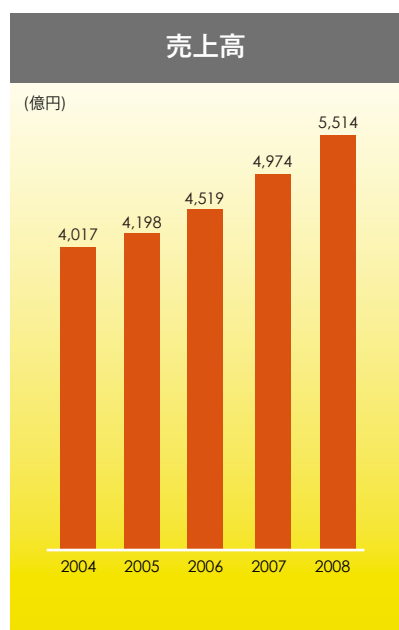
### 見通しに関する注意事項

このアナニュアル・レポートに含まれている将来に関する見通しや予測は、現在入手可能な情報に基に当社の経営者が判断したものです。実際の成果や業績は、さまざまなリスクや不確定な要素により、記載されている内容と異なる可能性があります。

## 決算ハイライト

(3月31日に終了した会計年度)	百万円		増減率	千米ドル
	2008	2007		2008
売上高	¥551,431	¥497,396	+ 10.9 %	\$5,503,853
営業利益	33,119	21,070	+ 57.2	330,559
税引等調整前当期純利益	20,478	26,038	- 21.4	204,395
当期純利益	21,060	16,363	+ 28.7	210,206
増減				
総資産	526,192	¥536,322	-¥10,130	\$5,251,941
純資産	¥181,538	186,528	- 4,990	1,811,941
円				
		2008	2007	米ドル
2008				
一株当たり:				
当期純利益	¥62.81	¥48.79	+¥14.02	\$0.63
配当金	13.00	12.00	+ 1.00	0.13

注: 表示されている米ドル金額は、読者の便宜のため、2008年3月31日現在のおよその実勢為替相場1米ドル=100.19円で換算しています



# タイヤの海外販売が好調で、 営業利益が57%増に



南雲忠信

## 売上高は過去最高に

当期の連結決算は、営業利益が前期比57.2%増の331億円となり大幅な増益となりました。売上高も同10.9%増の5,514億円で過去最高です。タイヤ、MB事業ともに売り上げを伸ばしましたが、特にタイヤの海外販売が好調で、原材料価格の高騰や流通コストを中心とする販管費の増加を吸収しました。ユーロを中心に為替相場が円安に推移したことも増益に寄与しています。一方、経常利益は前期比25.3%増の252億円でした。期末に向けて進行した円高により、外貨建債権の回収・換算差損を計上したため増益幅が縮小しています。当期純利益は同28.7%増の211億円でした。投資有価証券評価損が発生しましたが、経常利益の増加に加え、北米子会社の収益改善などに伴う税効果があり増益となりました。当期末の配当については期末配当を一株当たり7円とし、中間配当6円と合わせて年13円とする予定です。年間では前年度に比べ一株当たり1円の増配です。

## 原材料高と円高で、次期は増収減益

2017年度に売上高1兆円、営業利益1,000億円をめざす新中期経営計画「グランドデザイン100(GD100)」を2006年度からスタートさせました。そして、その第一ステップであるフェーズIの2008年度目標として売上高5,600億円、営業利益350億円を掲げてきました。しかし、原材料価格のさらなる上昇と為替の円高傾向が予想され、2008年度の連結売上高は前期比2.5%増の5,650億円、営業利益は同21.5%減の260億円、経常利益は同10.6%減の225億円、当期純利益は同38.3%減

の130億円となる見通しです。残念ながら営業利益はフェーズⅠの目標を下回る見込みです。配当については中間配当を一株当たり6円、期末配当を一株当たり7円、年間で一株当たり13円を予定しています。

### タイヤ、MB事業の重点課題

新たに設定した2008年度の目標を確実に達成するとともに、2009年度から始まるGD100のフェーズⅡへつなげるため、引き続き以下の課題に重点的に取り組めます。

#### <タイヤ事業>

- ・国内外での値上げの浸透
- ・高付加価値商品の強化
- ・グローバル化の推進
- ・生産能力の拡大

#### <MB事業>

- ・国内外での値上げの浸透
- ・生産能力の拡大
- ・新規商品の取り組み
- ・ゴルフ用品の拡販

### コスト削減と同時に値上げを推進

原材料高騰の影響は過去5年間で約565億円にのぼり、現在も天然ゴムに加え、合成ゴムなどの石化系原料の価格上昇が続いています。こうしたコストアップを内部改善のみで吸収することは難しく、タイヤ、MB事業ともにコスト削減を継続する一方で、値上げの浸透を図っています。

### 省燃費性をさらに高めた「DNA Earth-1」発売

高付加価値商品の販売強化として、オレンジオイル配合のコンパウンドを採用し、ワンランク上の省燃費性を実現した「DNA Earth-1(ディーエヌイー・アースワン)」を

今春に発売しました。高い省燃費性能を幅広いユーザーに実感していただくため、全70サイズを展開しています。2008年度の販売目標は100万本です。

### 「ADVAN」を世界のプレミアムカーに装着

また、グローバル・フラッグシップ・ブランド「ADVAN(アドバン)」の世界展開にも引き続き力を入れます。今春はメルセデス・ベンツの最上級シリーズ「C63 AMG」に新車装着を決めたほか、「フォルクスワーゲン トゥアレグ」にも採用されました。今後も世界のプレミアムカーへの装着を進め、「ADVAN」の海外での知名度をさらに高めていきます。

### タイとブラジルでタイヤの販売強化

グローバル化の推進では、タイとブラジルにタイヤのマーケティング会社をそれぞれ2月と4月に設立しました。タイヤの需要の伸びが著しい両国で、さらに販売を強化するのが狙いです。

### 建設車両用タイヤの生産増強を一年前倒し

生産能力の拡大では、建設車両用タイヤを生産している尾道工場の第4次拡張を決定しました。当初の計画を一年前倒しし、2010年度には同工場の生産能力を2006年度の2.2倍の月産2,500トンに引き上げます。また、7月には中国蘇州のトラック・バス用タイヤ工場が生産を開始する予定です。

### 建設機械用ホースの生産能力を拡大

MB事業でも、建設機械向けのホースの需要が伸びているため、2010年4月までに茨城工場のホースの生産能力を日量9万メートルから10万メートルに引き上げる計画です。また、平塚製造所で旅客機用化粧室ユニットの生産設備を増設します。ボーイング向けOEM納入の増加や今後増大する補修需要に対応するのが目的です。

### 新商品の事業化を推進

MB事業の長期的な成長のため、新商品の開発に力を入れています。現在、騒音低減効果の高い多孔質弾性舗装や、床ずれ防止の車椅子用エアセルクッションで事業化を進めています。また、燃料電池用樹脂配管の開発に加え、電子材料分野での新商品開発に取り組んでいます。

### ゴルフ用品を拡販

ゴルフ用品は、競技志向のゴルファー向けのドライバー「TR MODEL500」、やさしく大きな飛びを実現する「egg スプーン」などの新商品を下期に次々投入し、順調に販売本数を伸ばしています。

### コンプライアンスを強化

昨年度は、マリンホースのカルテルへの関与で公正取引委員会の立ち入り検査を受けました。今後、このようなことが起きないようにコンプライアンスの徹底を図っていきます。当社では各部門にコンプライアンス推進責任者を選任していますが、彼らを中心に部門内のコミュニケーションを密にしてコンプライアンスの問題発見や解決により迅速に対応できるようにしていきます。また、社内eラーニングによる社員教育にも力を入れ、不正防止のための管理をさらに強化します。

### 地域と共生する企業をめざして

GD100で掲げる「トップレベルの環境貢献企業」めざして、国内外の18の生産拠点に約50万本を植樹し、社を創生する「YOKOHAMA 千年の杜プロジェクト」を昨年スタートさせました。各工場では従業員に加え、その家族や地域の住民の方々も参加して植樹祭を行っています。ほかにも、知的障害のある人達の社会参加を応援するNPOを支援するなどさまざまな形で地域との共生を図っています。

こうした課題に取り組みながら、基本方針である「良いモノを、安く、タイムリーに」提供することに力を注ぎ、GD100の目標達成と社会から信頼される企業をめざしてまいります。株主の皆さまにおかれましては、一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2008年6月

代表取締役社長

南雲忠信